

KODAK GRAY SCALE

LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



温泉園

完

西垣文庫  
文庫10  
6597



山東庵京山編 重岡集筆

熱海温泉圖彙

東都書肆 錦耕堂梓

自叙

西垣文庫

腕乃痛の長壽痛と云ふは老の足り  
覺え来なく來有中小旧病のち身もあ  
まば熱々の海の磯乃音中少くも温泉  
浴せんとも盆前の蚊や火のやうに  
を男児にまゝ飛来れをの子乃まゝ  
なり京水坂伴ひ七々もきぬの  
見陽や柳の柳町よ近き京橋坂



足小田原まで登る二つの猿蓑坂、その山は延  
 と横たがり雨も逢ふこの外郎がお登りし  
 たりば右の方より左の方曲りて熱海  
 のそよよきうらぬ山駕籠籠れおろく  
 挑尻を乗早川村も静に越へ右松山  
 乃星舟夜も昼もくは米噓村よ飯  
 茶屋なく根府川小賤を渡るさき海  
 おしふもあそびの所雪吹の山越は息

杖を憐し蜀道の半腸及登りあそび江  
 の浦の眺を盡すはれ赤澤山よ角力のやうな  
 小揚もろくさよよの濱よおろけあそび  
 熱海へ三里のゆきやそく股の殿定坂のむし  
 再び登る童子うらて伊豆の御社に建久の寺と  
 稱し熱海を女渡部の客舎やうらぬ  
 此里や西北に屏風の峯城建たれ冬も  
 巨隼城をく東南を扇れ海を瀬へ

夏も園庵の掃女もむづが遠ま大島兵  
彩雲の暮を張る方おしく近き初崎を  
崩すの故屋城多む平似り沖の白帆  
方天城摩しそ走里磯乃釣船兵浪よ  
徳て躍り兜若松れ岩城据り鳥帽子  
宮若れひそき城署より滄海嶺岳の  
脚名天工自持の大機関をまは編地の織  
乃宮まゝ鏡まゝろりとえき繪行御身

おゆまぐ此地は番多り柵柵細子の三巡り金  
金環を浴びて熱い女入湯の外かみおま  
さるもあはれ白駒の隠城空をせんも張三李四  
よひ〜〜けまば羅面のりやま磯城儒〜を視  
所別を記し京水が盃圖を加ふるもの城  
いあ〜熱海温泉園彙と題せり旅中の業  
の公忙しけまを少漏し見ゆ〜引ゆ〜  
よは書も多〜〜例の拙き筆のなをひま



の与市美名うぐふ従者豊三が戦死の地とて道の石より小墓あり  
 ▲米田村 ▲根府川・御厨形あり 禁命箱根小同ト御手形所公  
 家主の判百姓六村役の判之・浪人・西医師・利養の人・小人らと云は者何  
 人 但何人とも浪人とも医師とも小人とも・或るより根府川石成切にた  
 たりたり石成切の石より多し ▲江の浦あまの左石山づき左りの海岸  
 まで眺まよし 殊に江の浦の終系に ▲赤澤村・赤沢山あり東鏡  
 我物語小又へり赤沢山の石あり ▲河堀村 ▲吉濱村三りはへん  
 伊豆石成切の石より小泉より程なき中食の立場 ▲川河 ▲鳴沢  
 ▲伊豆山十八丁・伊豆権現の社の傍に在万葉集と云ふ古の多き名取に  
 ○熱海形勝 伊豆国加茂郡葛見庄 江戸より八里  
 夫熱海と称する上古此地の海濱に温泉ありて津湯浪城焼田多熱

海と名称三面八山成りて南の方滄海に對し東都の道より船  
 次津波邊なるは熱海内津の村ニツあり 和村養村と云ふ  
 京山のまゝ道邊のち名舎の主ありてその形記し一冊と云ふ  
 下の津邊を云ふものなり  
 ○熱海三路 ▲北の方由更の道より南の方より  
 ▲西南三崎の赴き道五里 ▲輕井沢 ▲松原の沢 ▲平井北谷の岐とあり  
 ▲大土肥 ▲八溝 ▲大場 ▲三崎 ▲南方細代浦小至二里 ▲和界村 ▲上多賀  
 ▲下多賀 中道 ▲小山 ▲和果 ▲細代のり  
 ○伊東崎の洞  
 和田胤長頼家の令ふとて伊東が崎の洞は多東鏡の石と云ふ  
 ○伊東崎の温泉及怪魚  
 村の中は寺ありてその創は温泉あり寺の池に魚ありて形難く似たり



鯉小ありは大方あり三尺小あり二尺其萬銀のぐくふと鉄鉤成鳴き  
糸成きまらごとく細成やまら紙のぐくふ里人よ成魚成得らるるは  
とら此池よかきりて成魚あり一奇らるとら登り

○熱海温泉由来由

博物志城安ふ凡水涼小石硫黄あまきまら水脈の白氷かきら温うらと  
よ三素記小輪山の温泉大権八人かまを得りしがま成及まそのまら  
かの疾をまらとら張衡か温泉の賦かま諸君散見し唐土の  
温泉救薬すし我朝温泉小浴く病を療治まら少名命成を  
權輿とまらと熱海の温泉八王二十五代仁賢天皇の御宇小あらと地所  
の海上温泉勿心流と湧沸て烟氣海中小なるの熱火湯ふらと煙と  
死ら魚の類岸小吹きて思真ふたくと人跡まらため小後らる星淵

を履て人王三十九代天智天皇の天平宝字の瀬箱根山の善徳の沙門あり  
日方廣徑を課ら万巻ふら故人呼で万巻上人とらとを常傷  
鹿嶋明神の系指の成熱海の海上成らと清のちと煙り  
上昇り火焰成ら諸の魚集死まら大集熱火の池獄小をらと上  
人よををて樹のひをまら停まて徑成らと念仏を唱まらと小づく  
よら白髪のを得まらりて上人よ對ひ見のふらと成海中小温泉ありて  
熱火湯を吹込て魚類を焦殺する吾常小ををあらとむまらと  
ま人の万病を治する不思議の灵湯を海中に在らむら玉を開小まらと  
おらひらとちとを仏法の功力をあらと上人と成成のり成灵湯成山里  
小後らるら魚類の死成らるら人民の病を助らるら功徳成万巻  
小傳ふべいと云らとらその形成らるら上人おらと成凡小ありは









万巻成  
 物千  
 ちよき  
 いごの  
 あんも  
 天年の  
 去東霞山

西宮

英泉画



万巻上人  
 葉原の  
 化現逢  
 國

天宮

万巻上人



右七日成一まらりとソレ下廻りて病の動くもあり湯の利るは次の一まらりと  
之病を療治し又の一まらりと病を補ひ氣血を補ひ支那を健む

○湯味

鹹氣あやそ苦く坎を厚け人遊の鹹氣とおぼくをいんとを信里人の湯ふ  
を成ひて木綿を織ふそ木綿甚うはけ湯を續ふそ此の暈のつみ  
すと少くは京山逗留のち茶の湯を用ひ此茶をくさ成湯ふひて  
そろじみそも多のかりうすなりや里言の虚なき成信を湯に珍瓏  
たろす水見のころく大便つせふ人一碗を喫はれうろく通せとろふ

○湯朝

湯の朝そと昼夜の三更長の時小奏朝ハツ時幸中時成遠くは四日又ハ  
五十月月小終月佛遊是成長津とふ次の月かたふ湯はは是成休とふ

その次の月勝り時成さるる二日成るてマコチ前のみ湯の沸形執ハ  
日頃小水成者ろろろくははる蟹の眼のぞく小湯をたすそそ湯湯  
ふろろろ石龍熱湯を吐く二間余もへそそ大反熱湯吐けるあて  
響貫雷のぞく湯氣入雲のぞく天小上昇スそ小牙の毛もよろろをそは湯  
を四方の客舎小引き湯形たふ冷して浴せむやあ里言の大湯と唱ふ  
その國成下小あはは諸國温泉多とふあたるた区成きと天工の機刺奇  
めろ思義の灵湯かろ唐土雜草山の潮泉頼れおをれろの音とへし  
○熱海七湯 大湯のかは成期そそあはは  
陽の味とおろく異なり  
▲野中の湯上の西より一町余北のそ山麓小ありそのわとての上丹のぞく里入  
は上成りて壁をゆる又砂中ハ礫事そ金色あり氏陽ろろろ後ハ多湯  
井とゆひけぞ ▲遠く湯下の町北あり里説よえむし馬走は左とふ



宗水筆  
 仲秋寫  
 文政庚寅十五卷



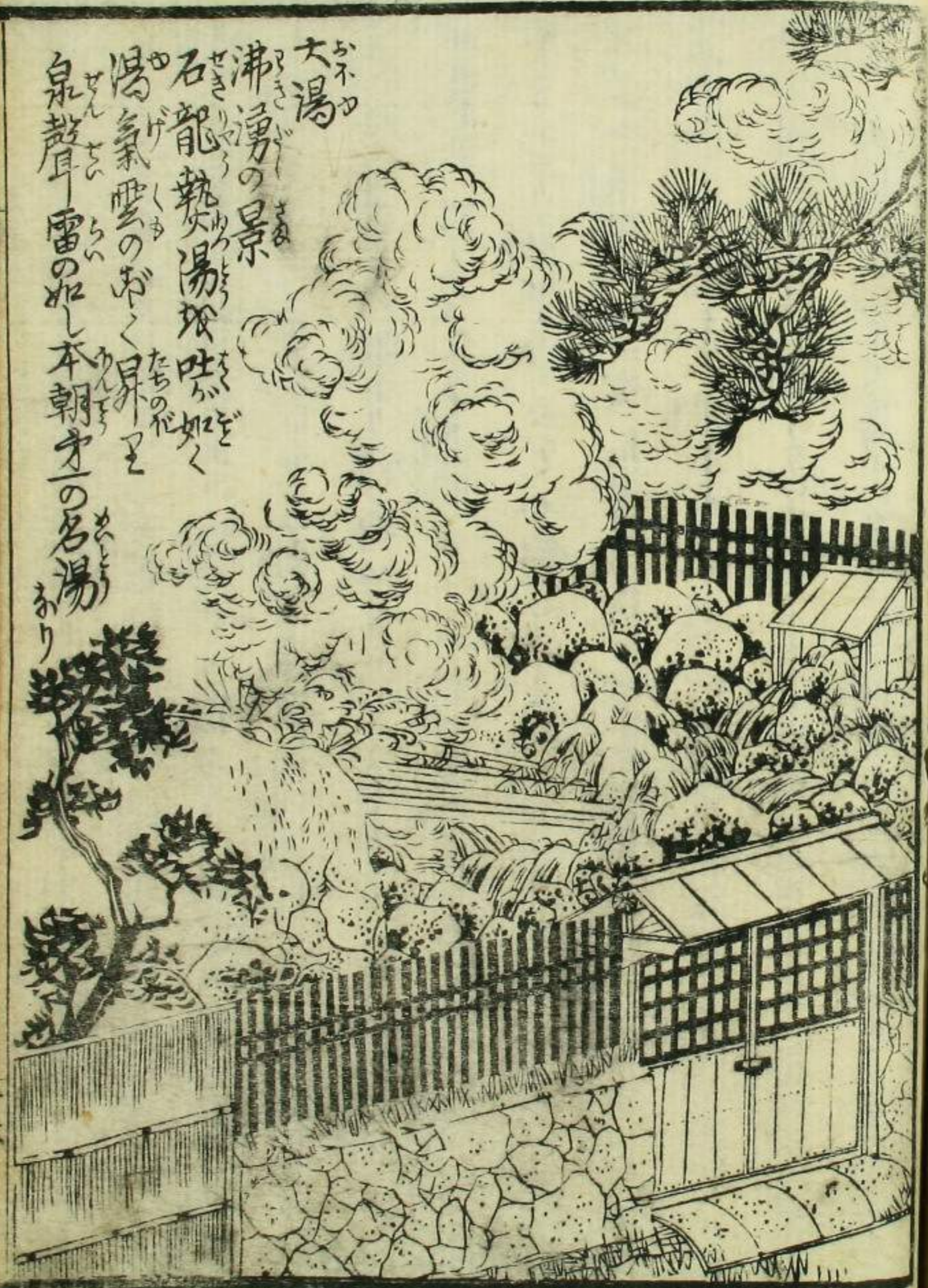
宗水筆  
 仲秋寫  
 文政庚寅十五卷



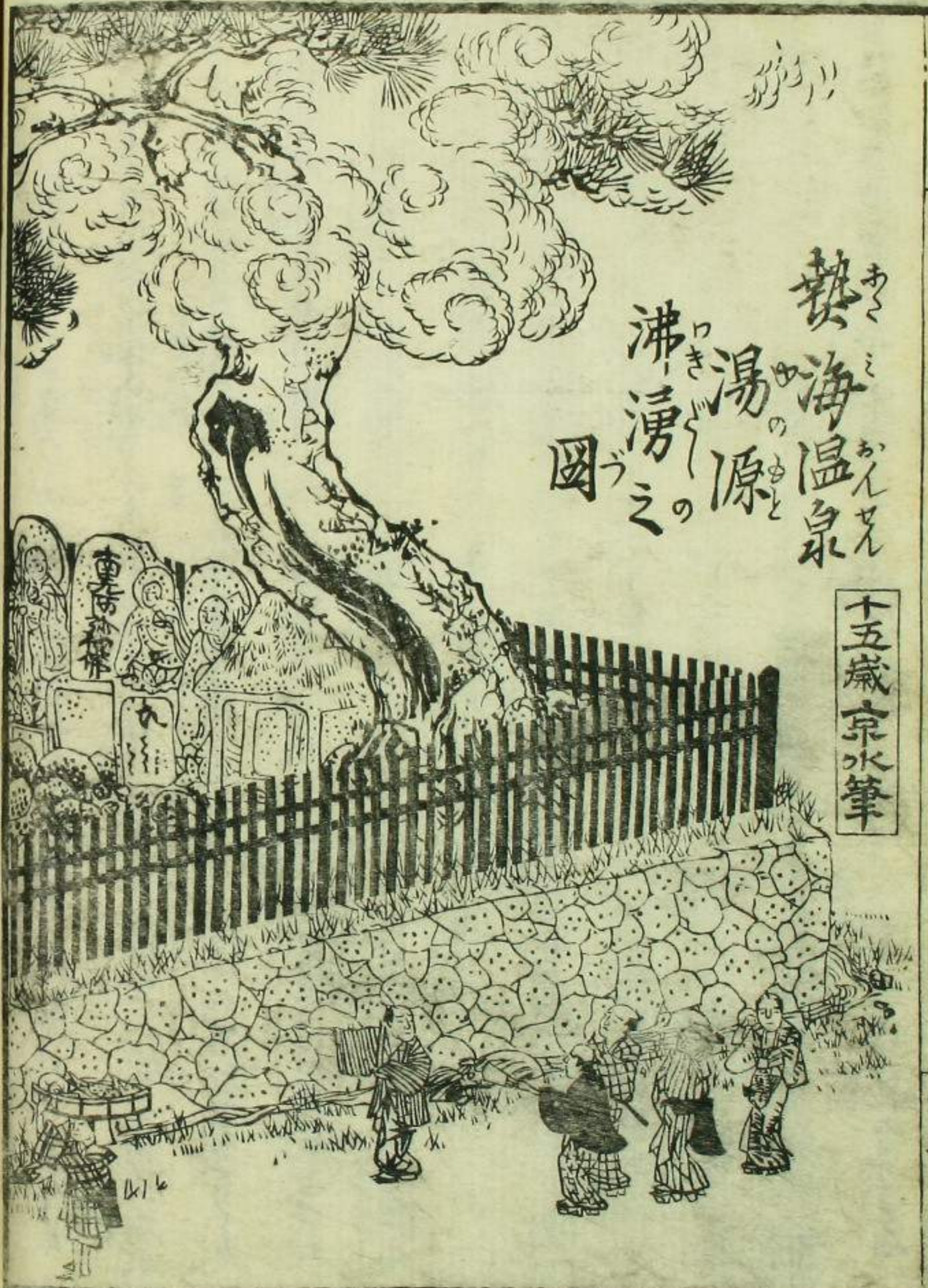
▲初寄 あまより海上三里東南あり方一里ありの小島  
 なりあまより眺み難し浮きかき古き沖の小島と流ら  
 ばさたうともは仲の小島城跡より秋の前後撰和歌  
 集よりくくり ▲大嶋あまより南海上十八里嶋の中三ツの島  
 山ありて客幸よと傳りといふ久遠山のごく大島の里人のあま  
 は路の人相時世異なる多し女八眉城をくぐり遠くは長城なる  
 かたれ髪ふくせ髪を死をむまべんれ体巻城よりと禮義とを体巻  
 貴賤のたがひあり絹と木綿を以ていふ近年昌平の女風孤嶋も  
 うそ時世の移りあが路もあれを大嶋の女も時世の移りあ  
 欲もれどもは路の風俗とて賢才の女成撰て女衆の對しとて  
 女風成同くそれと俚言ふ女頭といふさる事あふ村中の女もかの時世

の嶋田の髪ふくせんともくろの女頭ふくんの城をひけり女成の同くも  
 あまより後風の風ふかきとて生るるのむむ城を今もくろ一家の破れ  
 かり一家のまはれ嶋の中の破れをいふ評しとて今もたれ髪なりを  
 遠き嶋のよもめる賢婦あるはあまより 御代のさうくもたれ  
 髪あま体巻さる女の風俗の古風をさる古き絵巻城をさるもて他郷に  
 父接ぎる洋寫り花を古風のまも城存しとるるべし  
 ▲鷓鴣石熱海の西山城越て二半丹那村の山間ありくせあまの基  
 春の只一家城をさるてあま石ふくろ石のまたる平地に纏まるとして酒  
 ありか秘を用意さるる髪を夫節とてかき歌舞城ののり城仙若あま  
 其技城さるふあま石ふく郷音る人あつて春のさる声ひきよのあま一毛を  
 八尺を石の丈八六尺ありと懐の四尺もあり石面ふくまき孔さるる





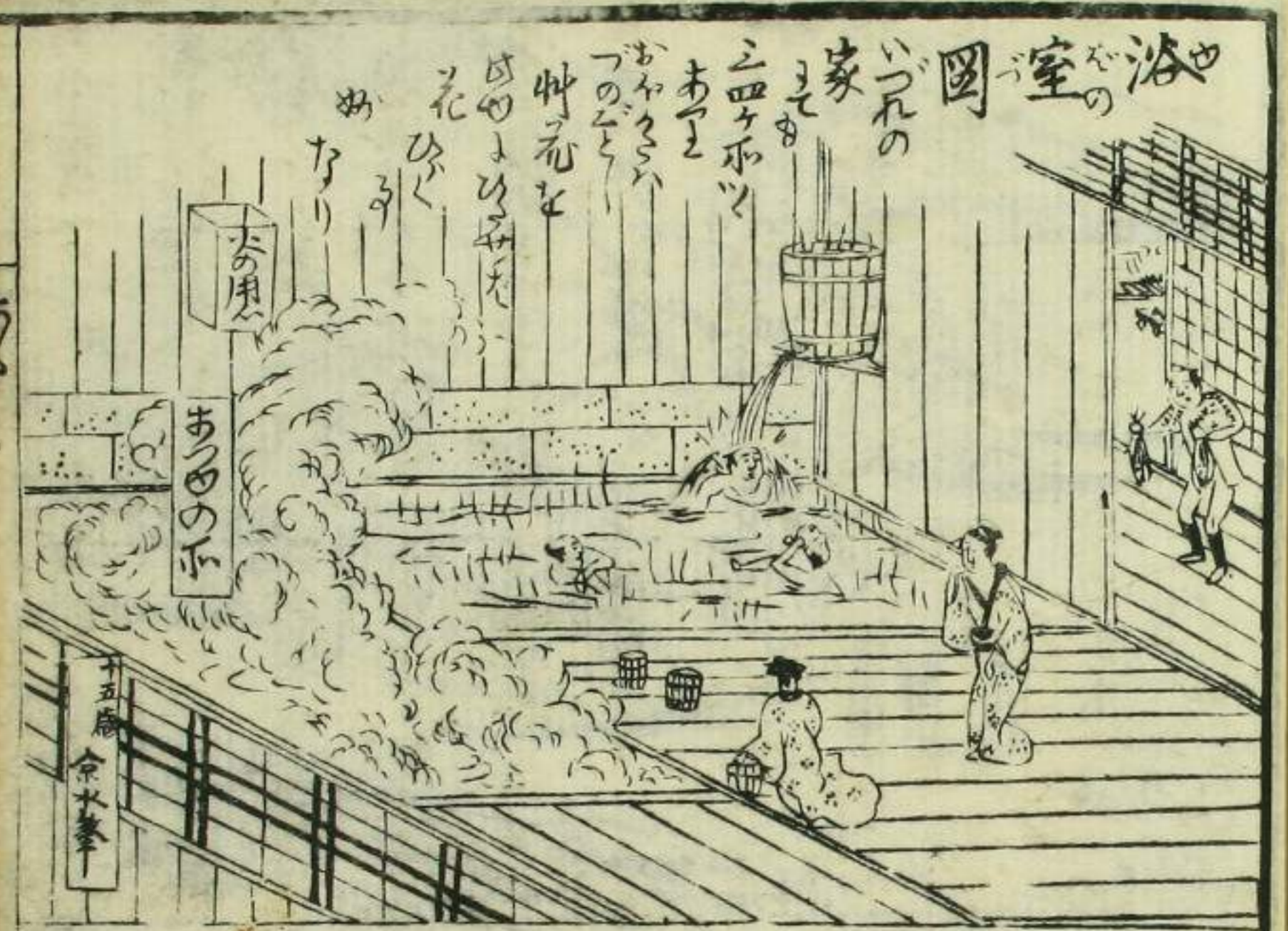
大湯おほゆの景まゝ  
 沸湯わきゆの景まゝ  
 石龍せきりゆう熱湯ねつゆの如ごとく  
 湯氣ゆけ雲うみのおく昇のぼり  
 泉聲せんせい雷らいの如ごとく本朝ほんてう才さいの名湯ななゆ  
あり



熱海温泉あつみかんせん  
 湯源ゆげんの湯ゆ  
 沸湯わきゆの湯ゆ  
 図ず

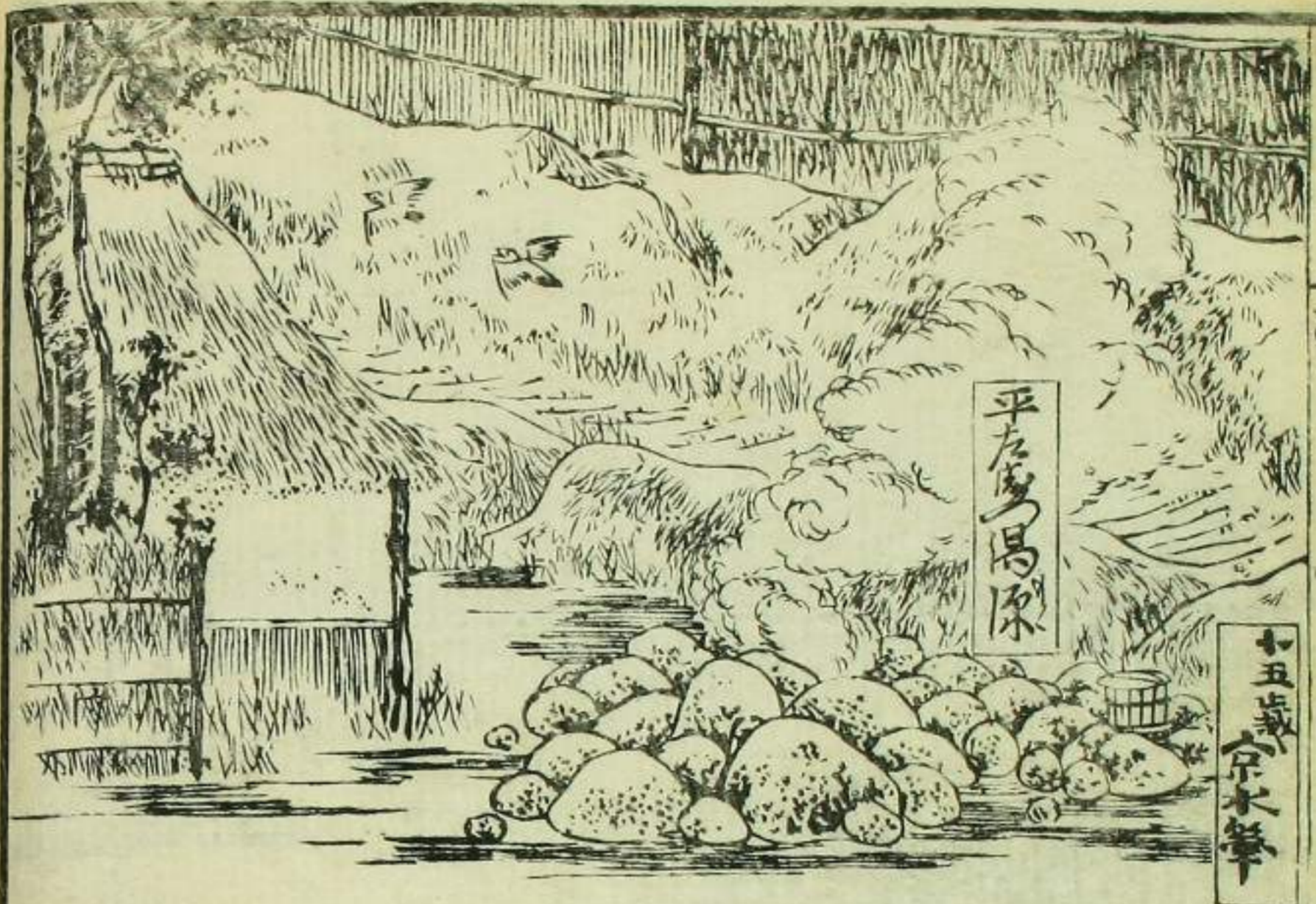
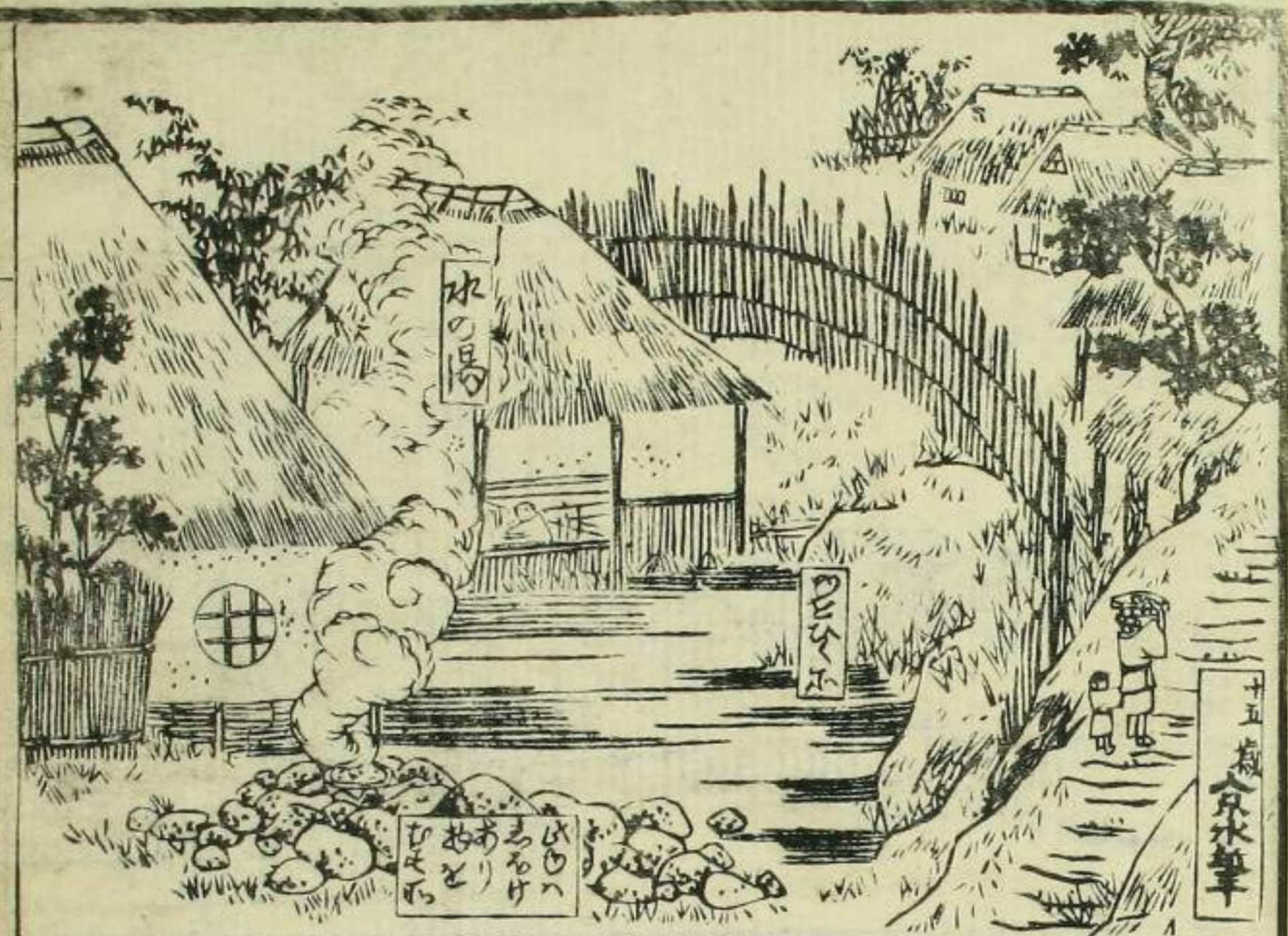
十五歳京水筆

あまらう一里いぬくそ成ききて予もたづねむとあひか返番の川  
 影まればとてあひかそとさざりき ▲錦の窟 念仏山のすそ赤の破ふあま  
 窟の中の若ふ五彩のいろあり波小映と錦のくさく ▲般若の窟 錦のくさく  
 と隣人の往還まきまわりの穴あり俗に胎内層とふ ▲甚盤石 石上ふ  
 具公盤の目のそと靴あり頼朝侍亭在り河其多城をさる一町とふ  
 ▲霰岩 数五つなりと霰のくさく ▲兜岩 ▲烏帽子岩 共胎内層の  
 不りふあり形とらて名づく ▲錦の浦 ▲那須の浦 胎内層の南北の破  
 とよ ▲榎破 ▲和田破 和田村の破とよ石決明多し ▲糸川 水海  
 来宮明神の山より流るあまそ新町新宿城流して海へ入る  
 ▲初川 笠原村山間よりいそせ丸のふもと城を経て海へ入る ▲和田川 和田は  
 流れ和田村とめぐりて海へ入るいづれも細流るは橋架してやふ幸魚



多し ▲業平井 あまそ新町あり  
 石の井筒ありあまそ業平の破あま  
 よりて名づく ▲三懸井 温泉寺の  
 川ありあり三懸の故よりて雲居禱  
 師の名づく形とふあまそ身の名水  
 ありあまそ地味浴の全貫入るるを  
 以井取用ひのふと云 雲居禱師の傳  
 温泉寺の下小祀也  
 ▲多賀一杯水 念仏山越えて細代村  
 小なる山径の側あり圍り僅一尺余の  
 小泉なり冷るる水のごと清徹る  
 る水見のおく傳をりむと東朝





神のせり 天神の社本所より西の方  
 四曲余ありやいふ海辺の社本所しよ  
 丁を逆浪ありて社成流したる尊体  
 木作るま下の破ふまきりてまねれり  
 社我今の地本移しともなち東都の  
 人は地小匠家のちには非を信じて感  
 應を得るるありて財をばじて社を  
 補ひける小家成歴て神祇の博士を  
 小丸りや各ありてする体成符して大の  
 我のむじ菅公築茶茶論居はく  
 たる時より真像七軀を彫刻ありて

海小流りり六軀ハ流是傳る所  
 ありてそ真像と祀る所の宮今ふ  
 在り其二軀ハいづれの地小流世  
 やささるるさしはは言像そ七軀の  
 一はして菅公の神作かんとおたりけ  
 ぬ社人大小軀ある傳る六つものま  
 ざんが何人の作かともあらず  
 菅公の神作もまの余は社本海  
 のむじりよありてまの余は海辺の  
 さままに伝ひのまの余は社本  
 一のんと見より里人信とす



宮居とも重修りるを

▲来宮大明神 湯治の社の西面を

かり山の上あり熱海の鎮守あり

傳ふ田和月三年六月十五日あまの里

人細成りて尺をりたる木像を得

魚まわさるる海甲ふまをしふ三まを

佃ふかりしちま天小怪る君の上ふ棄

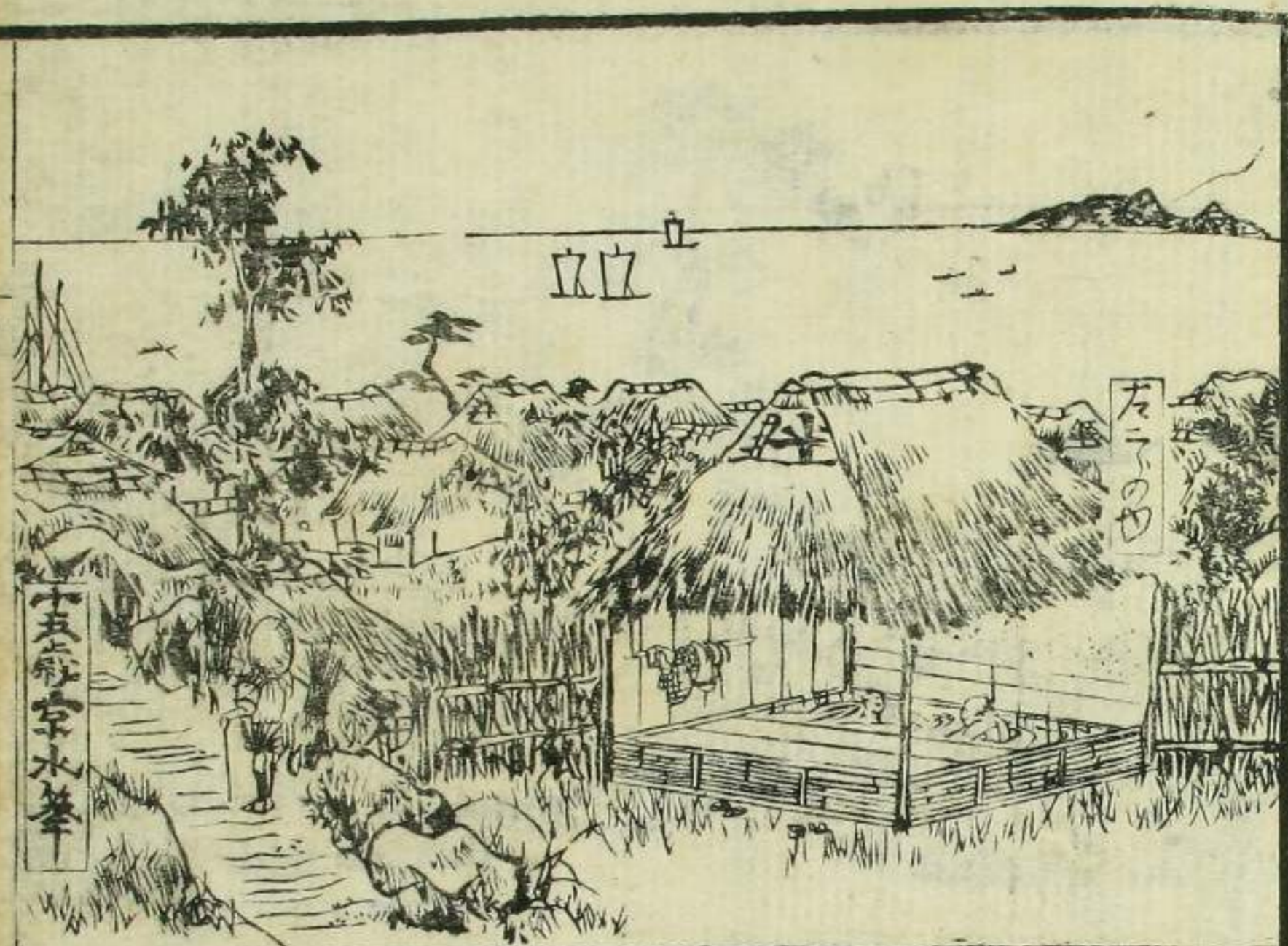
おたしふ和田村の農夫 今来宮の社官

青木氏の先祖と云

ち在坂拾ひたるそ家ふ持よりしそを家

の童ふ社の裏てのらまらるるはれ幸

獲命と云と海中ふありが時と云を



出現せり此地の北の山ふ七株の樹あり

て激の声聞るる形あり其地ふ

我をまつと承く村民と法蓮

温泉ふ浴を余のたふ恵成りて

灵湯の病ふ癒せたる成りてと

神地よりて今の所ふ祀る有来

のふとふ心を来宮と唱をり毎

年六月十五日の夜あまの浦と云

る魚成り供と十六日ふ神輿成り

の御旅所ふ移して祭あり

今の神官青木氏の物語ふ木の官の



祭祀の時神輿の上へ造りしる孔雀  
 稻穂城合せりありは稲穂あまの  
 上町の北に住する百姓平たうが田のちち  
 て刈り稲の古根より一茎城生して  
 実より毎年祭祀の時となすて  
 かねが田稲城せりていりるるる  
 久いぶうにふかの稲とせりる田の隣  
 ふ石城つと田の角とせり隣むき  
 石の間より稲城せりて神供とせりふ  
 その月のまふ平たうが家不幸ありが  
 次の年再び平たうが田をせりせり

一粟お旅ても神霊の赫くりて攻まぶ  
 小田変りる石のむら鳥居あり走湯山東明寺と云別名攻般若院と云  
 十二坊あり昔八ヶやうも廣大なり大社うらるる東鏡小詳なり・拾遺  
 扶木・松葉・哥枕名寄ホ古お攻のせり回跡より神霊のあまうらるる  
 番く人のあまふ  
 古井の社伊豆権現の西北あり古おの回跡

○寺院

- ▲大乘寺 目蓮宗 あまうら上町の西三町ありは寺小目蓮上人角作の木像あり傳云上人伊豆へ左遷の時甲三米のま像攻刻りありは攻寺に傳云又上人真跡の言多程あり信公の人稱賢攻社を許りて稱さるむ
- ▲海藏寺 妙心寺 上町の南三町 開山悟庵和尚中興潛溪和尚
- ▲温泉寺 妙心派 上町の西三町余 傳云文治五年頼朝の創構



本堂の壁に詩が懸して佳職哉雲居国師が譲り裏山より行方  
まよふもよしと云は僧もまよふ九ぢが後小温泉寺の藏本雲居国師年  
譜に云ふは云はれに詳なり▲湯河原地蔵 温泉寺の心もと小  
あり▲和田地蔵 和田村あり雲慶の作と云▲土沢地蔵 上田の西に丁  
▲月金地蔵 銅仏と云ふ西のむら五丁に云と云云▲此の地蔵 縁起に云はれは云はれ  
きたれども云はれを畧す▲峠の地蔵 縁起に云はれは云はれ  
畧す 日金山の安奉に云ふありは堂より西南の滄海城眺むと景色極  
妙熱海近嶺の勝地なり。此余も近隣の旧跡を歩むも多し  
なり 好事家の補訂に云ふ

○産物と云はれあり

挽物細工 桐葉大茶釜の膳碗のふ箱小鉢のふ茶器夏目香合

のふい▲ぬすみの細工 重箱まじりぐら吸めのふ盆のふ。在るれば旅  
客逗留のふ好み態に作りゆより出来品あり▲雁皮紙 今井  
半大夫家製衣 栗山先宗の創製と云造りをもむ依て雅品多し  
▲木の葉形搥温石 あまの湯の氣を自托と云まむ依て方病はし  
▲大湯の杉詰 温泉に三月をひじたる杉城たるおいて是は大湯のふ  
たご城つる一杉の代銀に云と云云と云はる日本杉のふり ▲魚類の乾物  
私に通ひ自在なるを畧すも江原にあり▲青木の箸 ▲あまの絵圖

○遊樂

旅客逗留中のなりと云云

▲碁盤 象棋盤 半の容あり ▲琴 三味尺鼓 大鼓 ▲茶の西具りふふ  
態と云はれ借と ▲借本 ▲揚弓と云 ▲春 山の花見 ▲殿より ▲青踏  
▲以千鶴 夏 螢狩 ▲濱の納涼 ▲破花び 秋 鮎つと 糸川 和田川  
初川





歌川國安画圖

七四



客屋湯の圖

熱海  
町家  
客亭  
之  
老  
景

七三

▲紅葉狩 ▲麻酔 ▲虫さし ▲暖地 ▲冬むし多し ▲早く冬を越すとリキ  
 客屋の庭にも松虫をとり終夜まで ▲茸狩 初子松がけのやま  
 雉子取 ▲小鳥狩 ▲冬千鳥 ▲雪見 ▲猪抄  
 ▲魚漁 ▲地才の遊樂なり ▲四季ふかき色 ▲鯛鯛 町とく  
 小大小の鯛数面投取得 ▲地引網 ▲松魚釣 ▲長徳 ▲石決明取  
 ▲磯の目ひひひ

○ 旅 店

大陽城引て湯場城造り 旅客を寄る客屋と唱ふ客屋にあふれ  
 客城さむ城禁も客屋二十七軒あり今休のり畧之

本陳 渡部彦左衛門  
 今井半太夫


富士屋 森右衛門	相摸屋 安右衛門
江戸屋 吉兵衛	山田屋 八郎右衛門
巴屋 次五郎	紙屋 新右衛門
鈴木屋 新吉	三浦屋 平助
遠房屋 平藏	小豆土屋 金五郎
真砂屋 利右衛門	伊豆屋 徳兵衛
坂口屋 弥五郎	伊勢屋 五郎右衛門
武藏屋 左五郎	蓬萊屋 恒三郎
菊屋 孫右衛門	鱗屋 平五郎
小澤屋 與五郎	

通計 二十一軒

旅客やより成りたる身主より食する成候ハ一まり七百の食  
 料を以て金百疋湯料として浪文に成定より自分も成  
 ともども食料よりづの帙面下をうしてをる家ありかゝる  
 だる水桶のさ座敷毎ふりけありて成候はけかけの水と  
 自在成るも時下清水之世人成召具せざる人自分も成候と  
 成るは備女ありて朝来りて夕かゝる食も成候酒も馴て信実  
 小供や成りたる人の成候はけり婦人成候は成候備候  
 夜具雜器の類ハ損料を其まより成候遊藝の具も成候  
 座敷料ハあじより成候滞留の目数旅客の多かすりて  
 心ある一▲あゝより小田原迄け成候一挺を成候成候成候  
 人足一人成候半成候▲村中の成候成候老実成候ハ山村ハ一世界と成候成候成候

花美小後なほと云ふ成候成候一熱海へ湯治と成候成候成候  
 成候遊山あそびと成候成候是の雜藝あそびハ左成候成候成候成候  
 病の成候人医療の成候成候成候温泉おんせん浴一長命ながいことと成候  
 成候一老温泉おんせんと名四方よち成候成候成候成候成候成候成候  
 成候は上様うへさまと成候成候成候と成候成候編者ひんしやの老波女おきな心成候

文政十三年秋七月於熱海客舎一を成候下之  
 旅由採筆

山東庵京山 

熱海温泉図彙大尾

重國

岩瀨京水

全

溪齋英泉

歌川國安

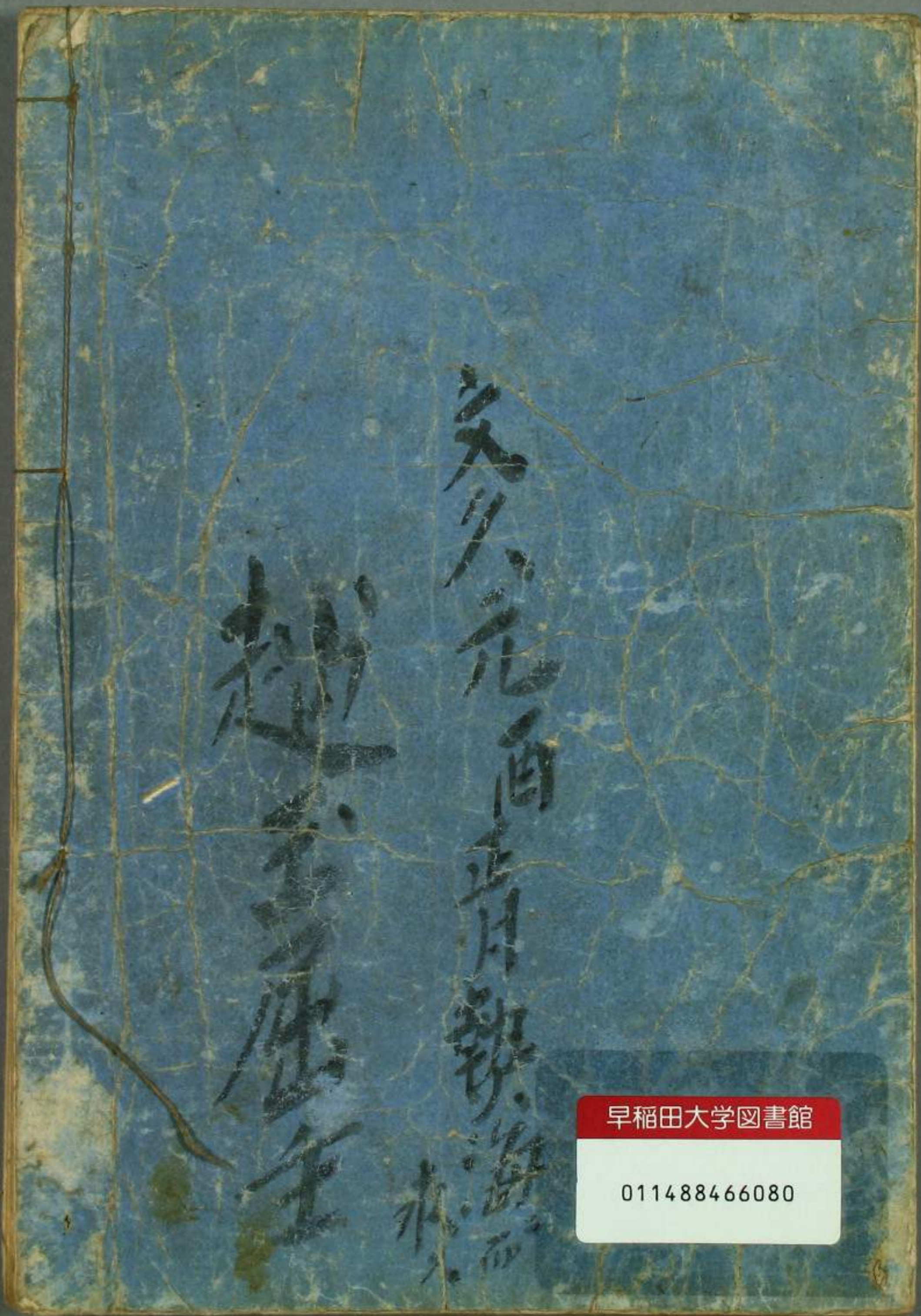
備書

洛梅舍楓川

天保三年辰秋  
上梓卷宛

江尾喰野三自

山口屋藤兵衛板



文久元年自青島

越前屋主人

早稲田大学図書館

011488466080